

ATLANTIS FC-387
MULTI-VOICING® FET CONDENSER MICROPHONE
OPERATING MANUAL



イントロダクション

Safety

マイクロホンが接続される機器が、お住まいの国で施行されている安全規制を満たしているか、それ以上であること、またアースリードが使用されていることを確認してください。

電源が供給されている間は、決してマイクロホンを分解しないでください。

Introduction

Atlantis FC-387はソリッドステートFETマルチパターン・マルチボイシング・ラージダイアフラムコンデンサーマイクロホンです。このマイクロホンは、極めて多様でユニーク、かつモダンなFETサウンドを求める録音者向けです。どのボイシング設定を選択しても、ふくよかで豊かな低域と中域、そしてスムーズでユニークな中高域を提供します。

このマイクロホンはクラスAエレクトロニクスと31.25mmのデュアルダイアフラムカプセルを搭載しており、無指向性、単一指向性、8の字型の極性パターンが可能です。マイクロホンは-10dBパッドと+10dBゲインスイッチと3ウェイボイシングスイッチを備えています。

Atlantis FC-387は細部にまでこだわって作られています。ひとつひとつ手作業でチューニングされたカプセルから、プレミアムな高解像度エレクトロニクスに至るまでこのマイクロホンはプロフェッショナル・オーディオ・レコーディングのための高品質な精密機器です。

製品と機能について

このラージ・ダイアフラム・コンデンサー・マイクロホンは、長年レコーディング・スタジオで働くサウンド・エンジニアからのフィードバックをもとに、考え抜かれた設計がなされています。

マイクロホンの特性は、ふくよかで豊かな低域と中域、そして滑らかでユニークな中高域を提供するように設計されています。高品質で信頼性の高い部品を使用したこのマイクロホンは、レコーディングスタジオでの長年の使用に耐えることができます。

マイクロホンの電子回路は12dB以下のセルフノイズを示し、最大SPLレベルは130dB(-10dBパッド使用時)なので、静かな音源も大きな音源も収音できます。31.25mmのダイアフラムは、片面に金の層を持つ超薄型プラスチック素材で作られています。このボディはRF干渉を防ぐ効果があり、送信所やワイヤレスマイク、その他の通信機器の近くでマイクを使用することができます。

Atlantis FC-387は、マイクグリルのすぐ下にあるマイクの両サイドと背面に3つのスイッチを備えています。これらのスイッチにより、ポーラパターン、出力ゲイン、音色を調整することができます(下図1、2、3参照)。

ゲイン/パッドスイッチ

マイクロホンの左側には、ゲイン/パッドスイッチがあります(図1参照)。

このマイクロホンは、市販されている他のマイクロホンとは異なり、出力ゲインを10dBずつ増減することができます。この機能は、多くのコンシューマグレードのレコーディングインターフェースに内蔵されているような粗悪なプリアンプを使用する場合や、非常に静かな音源をレコーディングする場合に非常に便利です。この+10dBゲインスイッチにより、マイクのキャラクターをより引き出すことができ、プリアンプからのゲインに依存することが少なくなります。また、-10dBパッド選択もあり、非常に大音量の音源を録音する場合や、録音の際にプリアンプのキャラクターをより引き出したい場合にマイクの出力を下げるすることができます。0dBがデフォルトのレベルです。

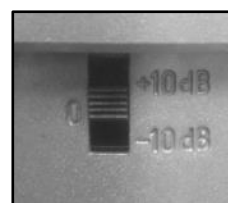


Fig. 1 Gain/Pad switch

ポーラパターンスイッチ

ポーラパターンスイッチ(図2参照)はマイクロホンの右側にあります。選択可能な極性パターンは、8の字型(上)、単一指向性(中央)、無指向性(下)です。異なるポーラパターンを選択できるため、このマイクロホンは様々なレコーディングシーンで使用することができます。

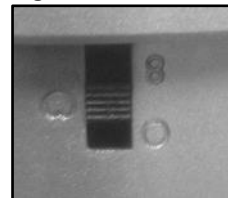


Fig. 2 Polar Pattern Switch

ボイスイングスイッチ

ボイスイングスイッチ(図3参照)により、Atlantisは非常に多様なマイクロホンとなります。オプションはF(フォワード)、N(ニュートラル)、G(ジェントル)です。フォワードは、中高域が強調された非常にオープンなレスポンスで、非常にモダンで明瞭なサウンドを提供します。Neutralは、よりクラシックなサウンドのために中高域の強調をわずかに抑えた、より均一なレスポンスです。Gentle(ジェントル)は、厳しい、ブライツな、または非常にフォワードなソースを和らげ、よりヴィンテージなサウンドを実現します。

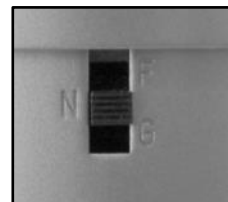


Fig. 3 Voicing switch

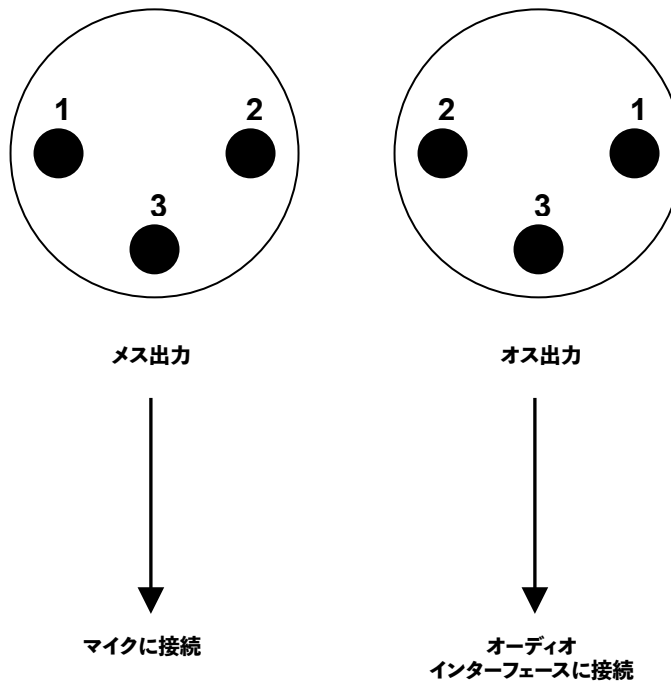
電源について

このマイクには+48V ファンタム電源が必要です。
ファンタム電源は最近のレコーディング・インターフェースやマイクプリアンプのほとんどに内蔵されています。

**このマイクロホンを+48Vファンタム電源以外の電源に接続しないでください。
48Vファンタム電源を使用することが、安全で信頼性の高い動作を保証する唯一の方法です。**

Connections

マイクには、必ず高品質の3ピンXLRマイクケーブルをご使用ください。
XLRケーブルのメス側をマイクに、オス側をレコーディングインターフェースに接続してください。



使用用途について

このマイクロホンは、音質的に滑らかで豊かなレコーディングができるように設計されています。
ソロボイスや楽器のマイキングに、またオーバーヘッドやルームマイクとしてディスタンスマイキングに使用することをお勧めします。
このマイクロホンは、以下に挙げるものに限らず、様々なソースに使用することができます。

FC-387は以下のようなレコーディング用途におすすめです。

Sound Source
Lead/Solo Vocals
Backing Vocals/Choirs
Speech & Voice-over
Piano (Grand & Upright)
Bass Drum
Toms
Snare Drum
Acoustic Guitar
Electric Guitar
Electric Bass
Violin
Cello
Organ
Trumpet
Trombone
French Horn
Tuba
Saxophone
Flute
Clarinet
Harmonica
Cymbals
Bongos

それぞれの使用用途の配置について

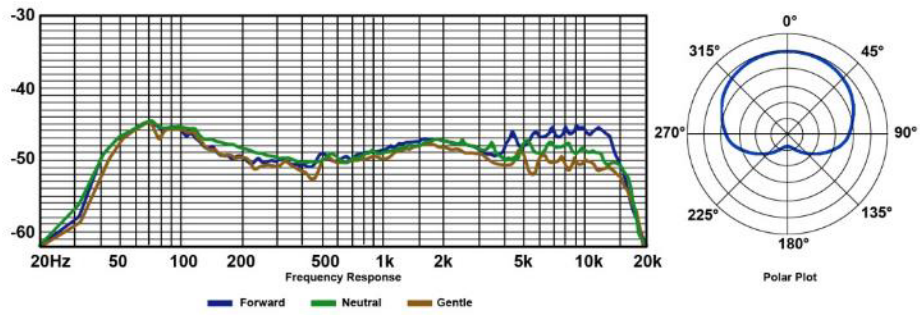
録音環境は、どのようなテクニックの成功にも重要な役割を果たします。幅広く試してみることをお勧めします。

Lead/Solo Vocals	ソースからの距離:6~12インチ。パターン:単一指向性、ポップスクリーンまたはフォームウィンドスクリーンを使用。シンガーのトーンやスタイルに応じて、異なるヴォイシング設定を試す。
Choirs	ステレオで2本、スポットマイクでソプラノ、アルト、テナー、バスの各セクションに1本ずつ、またはステレオで1セットの間隔をあけてマイクを使用。
Backing Vocals	個別マイク:ソースからの距離は6~12インチ。パターン:カーディオイド、ポップスクリーンまたはフォームウィンドスクリーンを使用。グループマイク:カーディオイドまたはオムニを使用し、ボーカリストをマイクの前に半円状に配置します。
Violin & Viola	ミュージシャンのスタンスに応じ、6~10インチの高さからマイクを“f”ホールにセットする。単一指向性または無指向性のボーラパターンを使用してください。存在感を増すには+10dBのゲインを使用します。
Cello, Upright Bass	マイクホンは、“f”ホールの1つから約12~18インチ離して対向させる。カーディオイドまたはオムニボーラパターンを使用する。存在感を増すには+10dBのゲインを使用する。
Acoustic Guitar	シングルマイク:サウンドホールとネックがボディに接する部分の間に、ギターから6~12インチ離してマイクを設置する。カーディオイド・ボーラ・パターンを使用。ステレオマイク:1本のマイクをボディの端とサウンド・ホールの間6~12インチに置き、サウンド・ホールに向けて、2本目のマイクをブリッジから1~2フィートの位置に置く。カーディオイド・ボーラ・パターンを使用。
Flute	シングルマイク:マイクをフルート奏者の片側に置き、マイクをフルート奏者の口に合わせる。カーディオイドまたはオムニボーラパターンを使用。ステレオマイク:フルート奏者の片側にマイクを置き、フルート奏者の口にマイクを合わせる。2本目のマイクを楽器の側面に向ける。カーディオイドまたはオムニボーラパターンを使用する。
Clarinet	1本のマイクを最も低いキーから5~10インチ離し、キーのノイズを減らすために少し横に置きます。単一指向性のボーラパターンを使用する。
Saxophones	マイクホンを12~30インチ離し、楽器の中央を狙います。単一指向性のボーラパターンを使用してください。
Trumpet	マイクを楽器の10~15インチ前に置く。マイクは軸から少しずらした位置で回転させる。10dBのパッドとフォームウィンドスクリーンを使い、SPLを上げ、ブローノイズを減らす。ボーラパターンは単一指向性を使用する。
Grand Piano	テクニク1:4~8フィートの高さから、XY、MS、またはORTFのペアを弦の中央に配置する。テクニク2:2本のマイクを弦の6~18インチの高さに設置する。1本は高音弦の上、もう1本は低音弦の上に置く。
Upright Piano	蓋を開け、2本のマイクを弦の6~18インチ上に置く。1本のマイクは高音弦の上、もう1本は低音弦の上に置きます。ハンマーのキャラクターを強めたり弱めたりする場合は、マイクを近づけたり遠ざけたりしてください。
Electric Guitar or Bass	マイクをスピーカーのコーンの中心から2~8インチ離します。マイクを軸から少しずらす。10dBのパッドと単一指向性パターンを使用。
Drum Overheads	2本のマイクをABまたはXY構成で、ドラマーのヘッドから2~6フィート上に設置します。単一指向性または無指向性の極性パターンを使用。
Tom Toms	各タムまたは2つのタムに1本ずつマイクを使用します。マイクをトップリムから1~3インチ離し、ドラムヘッドに向けて少し角度をつけます。10dBのパッドを使用します。
Floor Tom	マイクをトップリムから1~3インチ離し、ドラムヘッドに向けて少し角度をつけます。10dBのパッドを使用。
Bass Drum	マイクをバスドラムの前面から6~24インチ離し、バスドラムまたはバスドラムにカットアウトホールがある場合はそこに直接マイクを向けます。必要であればフロントヘッドを外します。10dBのパッドを使用します。
Snare Drum	マイクをトップリムから1~3インチ離し、ドラムヘッドに向けて少し角度をつけます。パッドは10dB。極性は単一指向性。

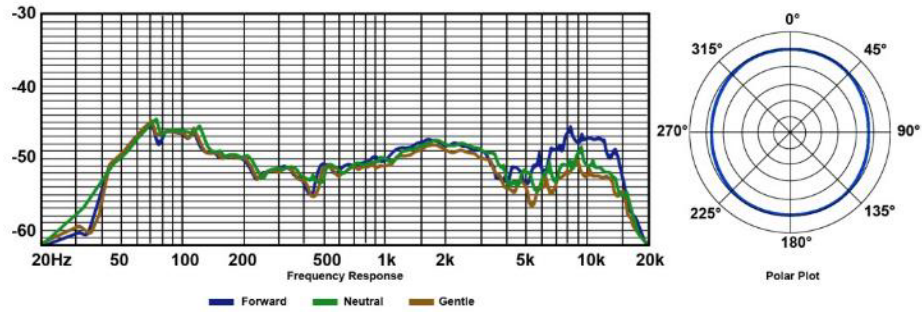
スペック詳細

Type:	31.25mm dual large diaphragm pressure gradient transducer microphone.
Polar Patterns:	Omnidirectional, Cardioid and Figure-8 selectable.
Circuit:	Low-noise solid-state FET
Frequency Range:	20Hz-20KHz
Dynamic Range:	130dB minimum
Impedance:	< 200 ohms
Max. SPL:	0.5%THD@1000Hz: 130dB (-10dB Pad engaged)
Self-noise Level:	< 12dB(A)
Sensitivity:	16mV/Pa OR -36±2dB 0dB=1V/Pa 1000Hz
Special Features:	-10 dB attenuation and +10dB gain switch 3-way Forward, Neutral, Gentle voicing switch
Connector:	3-Pin standard XLR
Power Requirement:	+48V phantom power

周波数特性とポーラー・パターンのプロット



Cardioid



Omnidirectional

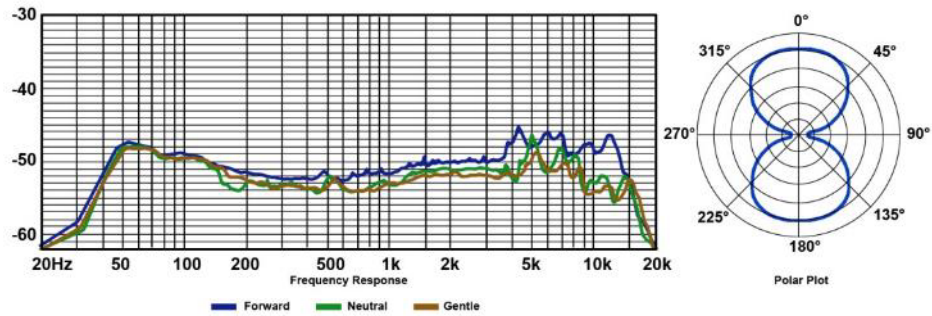


Figure-8

All measurements taken at 0 degrees (on axis)